使命感を原動力に

株式会社ウスイ消防は消防防火に関連すること・ものを専門的に取り揃えている会社です。昭和三年、岐阜市美殿町にて初代の臼井辰雄さんが、当時の警察官が一般的に装備していた鉄製のサーベルなど、金物の取扱い業として創業しました。

その頃、消防行政は警察行政の一環として組み込まれており、警察官のサーベルの取扱いに関わっていたことから、当時の警坊団(消防)に関しての商品の注文も受けるようになりました。昭和二十年には現在の場所である岐阜市金園町に移転し今日に至ります。

今回は、三代目、代表取締役社長の臼井潔さんに創業以来大切に繋いできた使命感や想いについてお伺いします。

株式会社ウスイ消防 代表取締役社長 臼井 潔さん

跡を継ぐことへの使命感

臼井潔さん六十四歳。社業に対して、若いころは「継ぐ」という気持ちは全くなかったと振り返ります。

「小学校四年生の時にふとしたきっかけではじめた馬術の虜となり、学生時代にはナショナルチームに召集されるほど実力をつけていきました。馬術の『馬(相棒)と心を合わせて障害に臨む』という、技術を越えた難しさに惹かれていきました」

将来はその道で生きていきたいと思うようになっていった潔さんですが、海外遠征に出掛けていくようになると、世界とのレベルの違いを痛感し、競技を続けることを断念しました。

そして大学卒業後、二代目である父の一太さんの勧める消火器の販売や消防設備の設計や施工を行う会社へ入社しました。

「その時はまだ馬術を諦めたばかりで、父の跡を継ぐ、という意識は全くありませんでしたが、父がそこで学べと勧めてくれたことには大きな意味があったのだと今は感謝しています」

その後、しばらくして家業へ入りましたが、数年後、思いもよらなかった大きな転機が訪れました。それは父、一太さんの急逝。潔さんが三十八歳の時でした。

「突然の出来事に、頭が真っ白になりました。会社の舵が取れるのか、社員が自分についてきてくれるのか、何もかもに不安でした」

そんな潔さんに、周囲から大きな「喝」が飛んできました。

「やる気がないなら潰れるよ」

厳しい言葉でしたが、これで潔さんは覚悟を決めたと振り返ります。

「目が覚めました。祖父や父が人の命を守るために、使命感と誇りを持って守ってきた仕事、会社を中途半端な気持ちで継いで潰してはいけない」

そう想いを強くし、会社を守っていくため、経営者としてさまざまな分野の勉強を始めました。

「今となっては、若くして跡を継ぐことになったおかげで、早くに経営を学ぶきっかけを得ることが出来たと思っています。覚悟することも父が教えてくれたのだと思っています」

初代の想いを繋ぐことへの使命感

ウスイ消防で扱う代表的なものの一つが消防車です。消防署で使用するサイズから、自治体の消防団などで使用するサイズまで、規模や予算に合わせ、オーダーメイドで製作しています。一番需要が多いのは消火のための水を汲み上げる消防ポンプ積載車です。住宅地火災に対応できる一般的なものから、民間工場用に専門性の高い消火剤や消火器などを装備させた消防車など、多様なニーズに合わせてカスタマイズし迅速な消火活動の手助けをしています。

「人の命を一秒でも早く助けるために器具、機材に関して常にアンテナを張っています。器具や機材は日々進化しています。また、良い器具や機材が揃っていても肝心な時に役に立たないのでは意味がありません。安心安全のための定期的なメンテナンスまでしっかり行います」

それは初代の辰雄さんがずっと大切にしてきた言葉「在平素(ありへいそ)*」を形にしたものでした。

「祖父はこの言葉が本当に好きだったようで、亡くなった後、この言葉の額が沢山出てきました」

辰雄さんが、残してくれた言葉はもうひとつあります。それは「牛の涎」。

「細く長く途切れず強いという意味のこの言葉は、商売に対し『歩みはのろくても着実にしっかりと続けていくことが大事』だということを伝えてくれていたのだと思います。父も祖父からこの言葉を聞き、その意味を理解し心に刻んできたに違いありません」

馬のように早く走れなくても、牛のようにずんずんと、一歩ずつ前に進んで行く。辛抱強く使命感をもって商売を続けてきたことで、高度な消防設備を提供し続けてこられたと、振り返ります。

「学生時代、馬に寄り添い、気持ちを一つにしよう、理解しよう、分かろうと取り組んできました。社業に入り、その想いは人や地域に対しても同じことだと気が付きました。従業員や地域、仕事で関わってくれた人たちのためにも、これからも社会のために役に立ち続けられる存在でありたいと思っています」

社業への使命感

「消防に関わり、何より大切なことは人の命を守ることが最優先だと常に考えています。何が大事かを考えれば自ずと答えが出てきます。利益を追求することではなく世の中に必要とされる会社でなければ残っていけません。当たり前のことを当たり前に、社会にとって必要である会社であり続けることです」

古いと言われても変えてはいけない、変わってはいけないこともあると潔さんは語ります。

「自分たちに何が出来るかをこれからも問い続けていきたいです」

これからも潔さんは強い「使命感」のもと、一歩一歩明日へ繋いで行きます。

*在平素……一時的な努力や時流にのって背伸びするのではなく、地味でも日頃から、努力と研鑽を重ねること

株式会社ウスイ消防
所在地 岐阜市金園町3-25
TEL 058-262-2106
FAX 058-263-5989